

### 3 小中学校教職員の任用

### 2 図 中学校教員配当

#### (1) 教員の新採用について

昭和38年度福島県公立学校教員採用選考試験は、例年より約1月半早め10月14日、15日、16日の3日間実施した。これは教員確保の施策として実施したのであるが、志願者数は、大学新卒者および一般採用志願者をあわせると、小学校232名、中学校410名に達した。

新採用にあたっては、前年同様厳選して適格者を得る方針のもとに、身体的諸条件の審査、筆答試験、第1次、第2次面接を実施し、特に理工工業系の教員には、採用内定を、その他の教科については教員確保の面から採用予定の通知をし、有能者を得るよう努力した。

- ① なお志願者全員に一般教養、教職教養、専門教科について試問し、その結果により人物、健康等について選考し、また小学校教員志願者に対しては、全員ピアノの実技審査を、中学校教員志願者中、図工音楽、体育、家庭の志願者には、実技審査をそれぞれ課し、新採用方針の実現のためにつとめたことは当を得た措置であった。
- ② 新採用者の配置については、県下全域の教員組織の充実と将来の広域交流の観点から、出身郡外に採用することを原則とし、都市、農村、へき地と全域にわたり配置した。その数は小学校316名、中学校270名におよんだ。
- ③ 新採用で特に本年は大学卒業者の教育界就職への低調性にかんがみ、本県としては、児童生徒の学力向上と高等学校生徒急増対策として必要な教員の確保方針を定め、これが目的達成に努めた。しかし小中の現職教員中より高校への転出の補充として、理科、数学、英語、女子体育の採用要望が強く、この対策として小学校課程の副免の資格者を中学校にまわしたが、完全に要望をみたすことはできない実状であった。
- ④ また、休暇休職の補充教員として、相当期間教職経験をもったもののうち、免許状の科目等を勘案して本採用にした。

#### 4 校長の新採用について

本年度の校長採用志願者は444名で昨年度より13名増となっている。そのうち新校長として抜てき採用されたものは、小学校44名、中学校21名で昨年の66名のそれと比較すると1名の減である。

校長の新採用については、資格、人物、健康等について慎重に選考し、特にへき地または、農山村の経験を有する者から選考するという方針のもとに、また採用にあたっては、その地域に居住し、校長職に専念できるもの

学級規模	34年度	35年度	36年度	37年度
	担任外	担任外	担任外	担任外
1				
2	1	1	1	1
3				
4	2	2	2	2
5				
6				3
7		3	3	
8	3			
9				
10				4
11		4	4	
12	4			
13				
14			5	5
15		5		
16	5			
17				6
18			6	
19	6	6		
20				7
21			7	
22	7	7		
23				8
24			8	
25	8	8		
26				9
27			9	
28		9		
29				
30				
31				
32				
33				10
34				
35				
36				
37	9	10	10	
38				
39				
40				
41				
42				
43				11
44				
45				
46				
47				
48				
49				
50				